

令和4年度(2022年度)

社会福祉法人 和光福祉会事業計画

1) 学童保育 富岡児童クラブの設置運営

名 称	富岡児童クラブ
場 所	荅北町富岡 富岡保育園内（富岡小学校裏）
指導者	野田明子・赤尾陽子・古瀬朱梨
対象児童	小学校1年～3年生 特に必要がある場合には、4年生以上も可

1 富岡児童クラブの内容

- ① 就労などで家に保護者がいない家庭の低学年児童の放課後を、児童が心豊かに安定して過ごせるような場と保護者に代わる人の提供。
- ② 子ども達の縦割り関係の構築。
- ③ 規則正しい学習習慣の形成。学校から帰ってきたらまず宿題をする。
宿題がなかったら、学童クラブが用意したプリントをする。
しかし子どもの教育の一番の責任者は、その保護者であり、子どもの学力を認識して頂くために、宿題のチェックは、必ず家庭でしていただく。
- ④ 手作りのおやつにより、安全な食品を提供すると共に、買い食いや市販のどぎつい味のお菓子から、なるべく子どもを遠ざける。
- ⑤ 海や山を始めとした戸外での様々な遊びを提供し、とにかくスマホゲーム等で引きこもりがちな生活からの脱却を図る。けん玉やビュンビュンゴマや将棋、らQなど、スマホゲーム以外に友達とのもっと楽しい遊びがあることを子ども達に伝えていく。
- ⑥ マリンバ演奏の練習を通して、楽しい音楽体験と友達と協調することの心地よさを味合わせる。
- ⑦ 様々な具体的な場面を通して、諦めずに努力していく楽しさを子ども達に体験させる。
- ⑧ 絵本の読み聞かせを通して読解力を養う。

以上のことに留意して、学童クラブを運営していく。

2 児童クラブの生活

- ① 開設日及び開設時間年間287日間開設する。
(日曜・祝日・盆・年末年始はお休み)
 - ・ 平常

月曜日～金曜日	午後12時30分 ～ 午後7時00分まで
・ 土曜日	午前8時～午後5時まで
・ 春・夏・冬休み	
月曜日～金曜日	午前8時～午後7時まで
土曜日	午前8時～午後5時まで
- ② デイリープログラム

PM. 1:00～3:30 帰園・宿題・音読・学童のプリント

PM. 3 : 4 5 おやつ・学習
 PM. 5 : 0 0 遊び・本の読み聞かせ・お掃除
 PM. 6 : 0 0 ~ 7 : 0 0 帰宅（園バス利用者は、バスで送る）

3 月 謝

月額5千円（講師謝礼・教材代・おやつ代）・保険料1,800円

おやつは、保育園と同じ献立の手作りのものを出す。

長期休暇の場合は、1日300円（給食費）×出席日数の追加。

4 在籍状況

	富岡小学校	志岐小学校	都呂々小学校
1年生	10	1	2
2年生	10	2	1
3年生	7	1	
4年生			1
5年生			1
計	27	4	5
総計	36		

2) 富岡保育園の設置運営

名 称 富岡保育園
 種 別 保育所
 住 所 熊本県天草郡苓北町富岡2, 476-1
 定 員 60名

園児数 2022年度の予定園児数(定員60名)

年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
4・5	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19
3	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
1・2	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47

職員数	園長	1名	子育て支援員	1名	
	保育士	12名	学童支援員	1名	
	栄養士	1名	保育補助	1名	
	調理員	3名	運転手	1名	計22名
	看護師	1名			

2022年度富岡保育園事業計画書

I. 保育の基本

II. 保育の目標

III. 保育の実践

IV. 行事予定

以上の4項目については、当園の「全体的計画」に記す。

V. 保健・安全・給食

1 保健について

登園時において、子どもの健康状態を観察するとともに、保護者から子どもの状態について報告を受けるようにし、保育中に異常が発見された場合には、保護者に連絡すると共に医師に相談する等、臨機に適切な処置を講ずるよう努める。

また、定期的に身体測定を行うとともに、嘱託医による内科及び歯科の健康診断を実施し、健康や発達状態の把握等に努める。

衛生管理マニュアルをもとに消毒の徹底及び手洗いの励行に努めたせいか、2020・21年度ともに感染症の流行はなかった。

だが今年度も新型コロナウイルス感染症に注意しなければいけない。体温計測による体調管理、手洗いの励行、活動後の消毒の徹底、3密（密集・密接・密閉）をさける為の部屋の確保につとめていく。また部屋での机の並べ方に留意する。コロナ対策についての職員の学習会を頻繁に開いていく。もしコロナ感染者が出た場合のマニュアルも完成した。

2 給食について

給食は、子どもの健康、発育、発達に欠くことが出来ない極めて重要なものでありその実施に当っては、乳幼児の必要な栄養量の確保、嗜好を生かした調理を行うと共に将来のよい食習慣の基礎（薄味・野菜を食べる・規則正しい食事・栄養バランスの取れた食事）を養うようにし、また、食文化を子ども達に伝えるべく、行事食や季節にも配慮し、旬の野菜を献立に取り入れるよう心がける。

今年度もまた、おかずを主菜・副菜・（時に副々菜）・汁物とし、午前午後のおやつも手作りで提供する。また初期・中期・後期の離乳食をバリエーション豊かに展開し、幼児食への移行食にも、配慮したい。

3 食育の推進

今年も保育園の菜園をフル活用し、野菜くずを利用した元気野菜作りに取りくむ。

J A 芑北さんや保護者の方の支援を受けながら、野菜の栽培を園児と共におこない、栽培からまでを経験することで、園児が野菜との楽しい出会いができるようにし、またクッキングを頻繁に保育に取り入れ、料理の楽しさを十分子どもに体験させ、よって将来の食生活を豊かに展開できる力を養いたいところだが、コロナ対策ではクッキングは自粛しなければいけない。天草に感染者が

増加している状況を見ながら考えていきたい。

4 事故防止について

事故防止は保育の大きな目標であることを認識し、保育中における子どもへの安全配慮
その他事故防止について常に留意する。

また、機会あるごとに交通ルールの遵守指導(天草警察署による交通安全教室の開催等)
や、避難訓練等火災予防活動をすると共に、保護者に対しても子どもの事故防止について
認識を深めるための協力を求める。しかし年長児親子でのタッチ運動は今年度も自粛する。

これまで大きな事故もなく過ごすことができたが、今年も引き続き事故が起こらぬよう
にしたい。

5 保育環境の整備について

園児数の減少により予算がかなり落ち込み、簡単に新しい遊具を入れることはできにくくな
っている。なるべく今あるものを大切にすることに心がけたい。

そのため、月4回の園独自による安全点検を励行し、より安全な環境作りに努めたい。
A氏に遊具の修復をお願いするようになって、今年で8年目である。船舶用のペンキを使い、
徹底した錆取り、6回までのペンキの塗りこみなど、今年度もお願いしたいと考えている。

Ⅵ 地域活動事業の実施について

地域に開かれた社会資源としての保育園を地域住民等のために活用する一環として、
例年富岡高齢者大学の会員からふれあい参加希望者を募り、その方たちと年5回のふれあい
会を実施することにしている。しかし2020-21年度に続いて今年度も、新型コロナウ
イルス感染症の感染を防ぐ為に老人会の方から断られるであろう。その時は園だけでどうす
るか考えたい。

また今年度も花祭りや運動会や発表会も変形せざるを得ないであろう。

伝承を初めて32年目に当たる富岡の伝承芸能である「シャギリ」(平成2年度より始めた)
は、保存会の先生の指導を受けて、今年も受け継いでゆく。

ボランティア精神を子どもの中にどう育むかを、考えなければいけないと感じている。
困っている人のために働く楽しさを感じられる子どもの育成をどうするか、今年度もこのこ
とを課題としたい。

Ⅶ 育児講演会について

給食のマナーを始めとして今の園児の状態を見ると、家庭教育力の不足を切に感じるこ
とが多い。しかしそのことを保護者に気づいて頂くのは、至難の技である。

21年度は、県教育委員会のお力をお借りして、親の学びプログラムを年2回開催するこ
とを計画していたのだが、保護者会役員会で「親の学び」はしたくないとの意見が出、講師の
話を聞く講演会をした。この講演会も講師の先生のお陰で大変好評であったのだが、親の学
びプログラムは、講師の話を聞くといい子育て講座ではなく、自分達同士で考え合う時間
を作ることがメインである。年1回の保育面談で問題を把握し、それを親の学びプログラム
にいかせたらと考えていたのだが残念であった。それで今年度は6月に講師をおよびした講
演会を開催することにした。12月には「親の学び」をしようと計画している。

また苓北中学校校区の保小中連携のテーマのノーテレビデーの推進を2022年度も続行していきたい。読んでもらえる園便り作りにも、努力したい。

VIII 職員研修について

これからの保育園運営には、保育の内容の向上が不可欠との認識に立ち、職員の資質向上を図るため、保育団体に依る研修会はもちろんのこと、園内研修会を更に充実させ全職員を挙げて、研修に取り組んでいく。特にコロナによりオンラインの研修が多くなっているので、積極的に利用したい。

またこれまでは研修会に出しても、復命してもらう時間が取れなかったなのでその時間を確保し、ひとりの研修をみんなの研修に広げる努力をしていきたい。

IX 第三者評価

中身の向上が何よりも大切な時代という認識に鑑み、第三者評価を受ける準備にかかっていくつもりではあったが、これを受けてのメリットがまだ見えず、今年も見送りたい。

X 職員処遇の改善

2022年度の一歩の改善目標は、今年も職員処遇である。昨年度は園児数が激減するので、予算が足りなくなると思っていたが、途中入園があり人件費を取崩さなくても良かった。しかしそれはベースアップを1号棒だけにして、処遇改善加算Ⅱの金額を処遇加算手当として、また特例交付事業の補助金を処遇改善特例手当として配分することで実現できたことである。

続けて22年度も1号棒のベースアップでは職員に申し訳がない。試算では1,634万の赤字ではあるが、今年は他の園並みにしてあげたいと考えている。

それにはまず理事会の承認を受けなければいけない。人件費積立金の取り崩しをするのだが、22年度も入れてあと3年分しかない。施設整備積立金から1000万切りかえても4年。後は園児数に応じた職員の人数を調整するしか術がないのではなかろうか。

XI 医療的ケア児保育事業への参加

2020年度の4月から、気切と胃瘻を施し、人工呼吸器を装着している3歳児のお子さんが、当園への入園を希望して下さっていると、多機能型重症児デイサービス Cuole の看護師さんを介して天草市障害者支援センターリンクの相談員の方が、何回も当園に足を運び、医療的ケア児の保育をするよう勧めて下さった。

園としても昭和58年から現在に至るまでの37年間に30名の障害児さんを育ててきた経験を有し、特に平成28年11月から気管切開と胃瘻を造設した1歳2ヶ月の幼児を保育してきた経験があるので、少しでもお役に立てるならと3歳のお子さんの保育を引き受けることにした。

昨年度は残念ながら補助は受けられなかったが、この1年間で笑顔があふれ、体も大きく成長した本児を見ると、統合保育のすばらしさを感じずにはいられない。健常児も偏見なく交流し優しさを発

揮してくれている。

今年度は最終年度となったので、保育を進めインクルーシブ保育という形を模索していきたいと考えるようになった。本児自身も昨年度より健康上も丈夫になり、年長児との交流にも耐えられるようになってきたので、医療的ケア児にとっても他の年長児にとっても楽しい保育園生活が展開されるよう努力していきたい。

Ⅶ その他（全体計画に記した以外の行事について）～ 行事を通して子どもの心を育むことをねらいとしている。「達成感を味わい自信を持ち、諦めない心を育てる」

- ① 個人面談（5月）
- ② 郷土芸能保存会による「富岡保育園シャギリ」指導 毎週水曜日午前8：30～9：00
- ③ りんせんスイミングスクール 毎週金曜日 年長・年中児
- ④ 沖吉けい子先生童謡教室 毎月第3木曜日 年少・年中・年長
- ⑤ 渡辺まどか先生リトミック・合奏指導 月2回 1歳児から
- ⑥ 岡田聖史先生運動教室 毎月第1水曜日 年12回 年少・年中・年長